

横浜市立金沢中学校 令和2年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
<ul style="list-style-type: none"> ○たくましく、自らの生き方を創り出す力を育みます (知・体) ○いのちを大切にすると、社会の一員としての自覚を育みます (徳・公) ○伝統を大切に、活気ある学校をつくります (開) 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語能力 ・問題発見・解決能力 ・持続可能な社会の創造に貢献する力

(2) 中期取組目標

中期取組目標
チーム金沢として全職員で活力と魅力のある学校づくりを目指します ○自他の生命を尊重し、思いやりのある、健康で安全な生活を築ける生徒を育てます。 ○不屈不撓の身と心、生徒が自ら困難を乗り越える力をつけることができるよう育てます。 ○「コミュニケーション力」と「課題達成のために協働する力」を育てます。 ○保護者や地域、関係諸機関との連携を深め、信頼される学校づくりを推進します。

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①校内授業研や小中一貫教育推進ブロック授業研において積極的に授業公開する。 ②生徒が「主体的に取り組む授業」「わかる授業」「ICTを活用した授業」を目指す。
担当 学習指導部	③学期末に生徒による授業評価を実施し、集計結果をもとにしながら授業改善を行う。

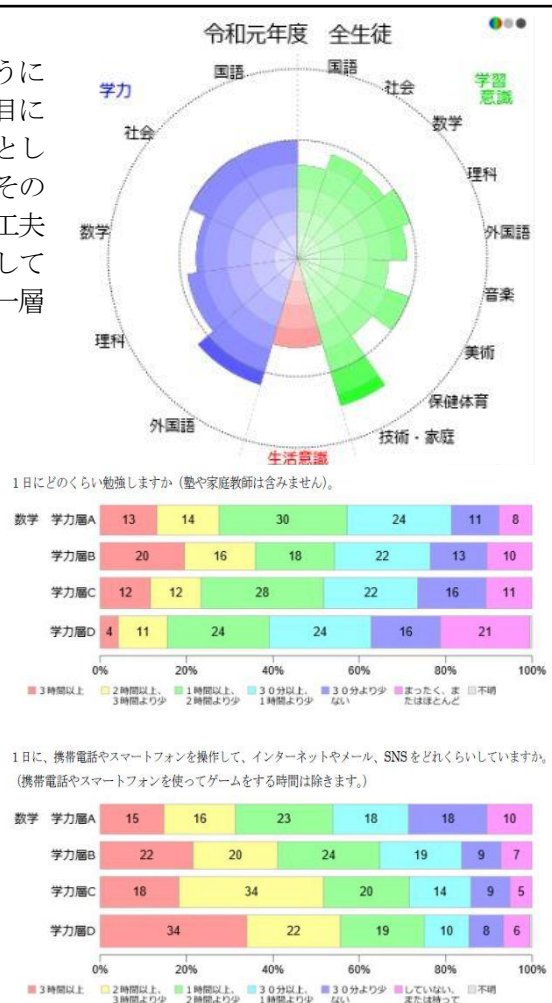
2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

全体的にみると横浜市の平均と近い学力の教科が多いように思える。しかし、教科ごとに内容を見ていくと、理数系の科目においては、市の平均を下回っていることが分かる。その要因としては、知識や技能の定着がやはり課題ではないかと考える。そのためには、各教科で知識や技能の定着をしっかりと行うよう工夫していく必要である。基礎を理解するための丁寧な説明、そして繰り返しの演習などを通して、基礎基本・技能の定着をより一層図ることが今後各教科で必要となってくる。

(2) 学習意識・生活意識と学力層とのクロス集計による分析

横浜市の平均を下回っている数学に関して着目してみると、やはり1日の勉強量において、学力層AからDで大きな違いがあることが分かる。では、家で勉強の代わりにどのような時間を過ごしているのかを分析してみると、携帯電話・スマートフォンを使用している時間が特に学力層Dにおいて圧倒的に多いのが表から読み取ることができる。学校での勉強はもちろん大事であるが、家での勉強時間の確保も学力を伸ばしていくのに直結していることが分かる。そのために、学校としては「分かる授業」を行っていき、まず「勉強を好きにならう」こと、そして「勉強方法の揭示」なども進んで行っていき、家庭学習の推進、学力の向上に向け今後も取り組んでいきたい。



3 令和2年度 学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組	
国語	◆伝え合うことで自分の考えを深化させる力	前期	○一人ひとりが自分の問いをもち、他者と対話しながら、その問いを解決していく言語活動を意図的に位置付ける
		後期	
社会	◆主体的に社会参画する姿勢	前期	○地域の課題に対し、学習した内容と関連付けて考え、よりよい解決に向けて他者と協働する学習を展開する。
		後期	
数学	◆自分の考えを説明する力・他人の考えを理解する力	前期	○数式や数量の計算・日常の事象を数理的に考察する過程で、各々が考えを論理的に説明する活動を積極的に展開する。
		後期	
理科	◆見通しをもって観察・実験を行い、他者と協働し問題を解決する力	前期	○実験の計画や事象の説明をする活動を取り入れ、仮説の議論や結果の共有、考察等において協働的に学び学習を振り返る場面を設定する。
		後期	
音楽	◆伝え合うことで自分の考えを深化させる力	前期	○生徒同士が音楽表現について意見交換する場を意図的に設定し、よりよい表現を目指すことのできる学習展開をする。
		後期	
美術	◆創造的に思考する力	前期	○感じた事や考えたことを基に主題を生み出し、作品制作を通じて完成までの構想を工夫しながら、心豊かに表現する授業を展開する。
		後期	
保体	◆自己肯定感	前期	○生徒が学習の見通しをもち、自らの課題を発見し、課題解決を図る取組を通して、運動の楽しさ、達成感を味わえる授業を展開する。
		後期	
技・家	◆課題を解決する力	前期	○生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、より良い生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。
		後期	
外国語	◆伝え合うことで自分の考えを深化させる力	前期	○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを設定し、生徒が主体的に表現し伝え合う学習過程の改善・充実を図る。
		後期	
道徳	◆伝え合うことで自分の考えを深化させる力	前期	○体験的な活動のねらいを道徳科の時間と関連付け、主体的に考え、多面的・多角的に議論する道徳科の授業を展開する。
		後期	
特活	◆学校生活へ参画する姿勢	前期	○所属する様々な集団や生活上の課題を見だしその解決のために話し合い、合意形成を図ったり意思決定したりする活動を設定する。
		後期	
総合	◆よりよい社会を創る力	前期	○実社会、実生活との関わりを重視し、探究の過程（「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」）が繰り返され、高まるよう学習を展開する。
		後期	
個別級	◆課題に対応する力 ◆様々な情報を活用・選択する力	前期	○個別の指導計画に基づき、個々の実態に応じて授業形態や学習集団の構成を工夫し、指導の充実を図るようにする。
		後期	